モブおん！！(改)

大台

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
モブおん！！（改）

【Ｎコード】
Ｎ４９８４Ｓ

【作者名】
大台

【あらすじ】
モブおんを１から書き直しました。
佐藤アカネとオリジナル主人公を中心とした話です。ほとんど３年２組のモブキャラをが登場します。
完全オリジナルなので読みにくいかもしれませんが、最後まで読んで頂けると嬉しいです。

出会い（前書き）

お久しぶりです。
行き詰ってしまったので完全に書き直してやろうと思い、改編しました。
最後までよんでいただけると嬉しいです。

出会い

第1話　　出会い

「・・・うん、わかった。大丈夫だよ・・・・・じゃあね、母さん」
ピッ

ここはとある街の住宅地。
今は3月末。桜の花が咲き乱れ、散りゆく季節。

ひとりの少年が携帯電話での通話を終え、目の前の一軒の家を見る。

現在１３：３０

「ここが今日からお世話になる家か。まったく父さんもひどいよな、いきなり海外に転勤だなんて」
彼の名前は河野（かわの）　修希（しゅうき）。
黒髪短髪、ルックス普通、学力普通な彼だが、ひとつだけずば抜けているものがある。
まぁ、それは後々分かることだ。

なぜ彼がここにいるかと言うと、父親がロンドンに転勤になり、母親もそれについていくため、一人っ子の彼は母親の高校時代の友人の家にお世話になることになったのだ。
修希が日本に残った理由は、既に高校3年生であることと、彼のずば抜けているもののためでもある。

ただし、今日からお世話になる家は前の高校からだいぶ離れてしまっているため、編入という形で転校をせざるを得なかった。

まぁ、他にもいろいろ手間取ったが今日から新たな生活が始まる。
今日はその第1歩だ。

「ここであってるよな」
修希はなんども地図と『佐藤』という表札を確認しながらおそるおそるインターホンを押した。

ピンポーン
「はーい」
チャイムが鳴ったあとすぐに家の中から女性の声が聞こえた。

そしてスピーカーから
『どちらさまですか？』
明るく穏やかな声が聞こえた。

「ええと、今日からこちらでお世話になる河野修希です」

『あ、修希くん！？ちょっと待ってね』
スピーカーからガチャッと受話器の音が聞こえた数秒後、玄関の扉が開いた。

すると、４０代前半ぐらいの女性が現れた。
「君が修希くんね？話は聞いてるわ、私があなたのお母さんの友達の『佐藤アヤメ』。よろしく」

「あ、よろしくお願いします」
修希はアヤメに一礼した。

「荷物はもう修希くんの部屋に運んであるから。さっ、上がって」

「はい、今日からよろしくお願いします」
そう言って、修希は佐藤家へと入っていった。

「ここが修希くんの部屋ね。基本的に自由に使っていいから」
修希が通された部屋は2階の1番奥の部屋。
しかし、修希はあることが気になっていた。

それは・・・
「あの・・・隣のアカネって書いてある部屋って・・・」
修希の部屋の隣にはかわいらしいプレートの部屋がある。

「あ～、アカネね。修希くんと同い年のうちの娘」
アヤメはニカッと笑っているが・・・

「娘!?聞いてないんですけど!!」
修希はかなり慌てている。
同い年の女の子がいるなんてまったく聞かされていなかった。
同じ家で初対面の女の子といきなり暮らすなど、全国の男子諸君の憧れだろう。

「あの・・・、娘さん、アカネさんはなんて・・・？」
修希がおそれおそれ尋ねると、アヤメは普通に
「楽しみにしてたわよ。写真もみせてあるし」
写真までみせているとは・・・、まぁ自分のことを少しでも知っている相手なら少し気が楽だ。
修希はアカネのことを微塵たりとも知らないわけだが。

「アカネは今部活行ってるから。夕方には帰ってくるわ」

「部活？」

「バレー部よ。さぁ、部屋片付けてらっしゃい。下でお茶菓子用意いてるから」
そう言ってアヤメは階段を下りていった。

ガチャ
修希が部屋を開けると、そこは６畳半の洋室で、ドアのそばにダンボールが積み重ねられていた。

「さて・・・やるか」

ビリビリビリ
ダンボールを次々と開いていった。

ーーーーーーーー

「こんなもんかな」

現在１６：２６

荷物をある程度整理し終えてダンボールも全てたたんでまとめてしばった。

部屋もすっきりと片付き、新しい高校で使う教科書も全て本棚に並べ終えた。

「修希く～ん！ちょっとおりてらっしゃ～い！」

いきなり下からアヤメさんの声がした。

なんだろうと思いつつも修希はすぐに部屋を出て１階に下りていった。

「あ、きたきた。修希くんここに座って」

「あ、はい」

修希が１階に下りてリビングの扉を開けると、アヤメと、修希と同い年ぐらいの女の子が椅子に座っていた。

修希が言われるままに席に着くと、アヤメは改まるように話を切り出した。

「修希くん、この子が私のひとり娘の『アカネ』よ」

「さ、佐藤アカネです」
青みがかった黒髪のおさげで長身の女の子。
部活から帰ってきたばかりか、部活のジャージを着ている。

修希は少し緊張しながら
「か、河野修希です。よろしく」
アカネにむかって軽く会釈する。

緊張しているのは修希だけではないようだ。
心なしかアカネの表情も固い。

「「・・・・・」」
ふたりとも言葉が続かず黙り込んでしまった。

「え～と、アカネはバレー部だけど、修希くんは前の学校で何か部活してたの？」
見かねたアヤメが何か話題を振ろうと修希に尋ねる。

「あ、前の学校では野球やってました」

ピクッ
（野球？）

「へ～、こっちでも野球やるの？」

「硬式野球部があればいいんですけど・・・、アカネさん」

「は、はい！？」

「なんで声裏返ってるのよ・・・じゃあ私は買い物に行ってくるからね」
そう言ってアヤメは席を立ちリビングを出て行った

「ええと、桜ヶ丘に野球部ってありましたっけ？」
実は修希は桜ヶ丘の部活を確認していなかった。
スポーツ推薦があることは知っていたが。

「え～と、あるけど部員の半分ぐらい女子だったような」
今年から女子も公式戦に出られるようになったため別に女子が多くても関係ないが、さすがは元女子高と修希は思った。

「あと・・・」
アカネがちょっともじもじしながら言った。

「同い年なんだし、敬語やめない？あとさん付けも・・・」

「あ、あぁ～、ええっと～」
修希は戸惑った。
初対面の人とはなぜか敬語を使ってしまう癖があり、いきなり直すのは難しいのだ。
いきなり馴れ馴れしくするのは抵抗がある。

修希が戸惑っていると、アカネは意を決したようにして
「じゃ、じゃあ・・・え・と、しゅ、修希」
いきなり名前を呼び捨てで呼んだ。

「！？」
修希はいきなりのことに驚いた。

こうなってしまうと自分は呼ばないわけにはいかないので
意を決して
「・・・・・あ、アカネ」
（・・・／／／）
名前を呼ばれると、アカネは嬉しそうに、恥ずかしそうに顔を赤らめていた。

ーーーーーーーーーー

ブンッ

『あの子はずっと男友達がいなかったの。修希くんが来ることになって頑張るって張り切ってたの。だからあんなに積極的だったのよ』

ブンッ

（男友達がいないって・・・いまどきそんな子いるんだな）

ブンッ

「・・・・・で」

「なにしてんの？アカネ」
修希は素振りを止めていつの間にか玄関の段差に座っていたアカネに尋ねる。

「いきなり部屋出て行ったから何しているのかなぁ～って思って」
アカネはニコニコしながら答える。

あの後、しばらく学校のことや街のことなどを話していたら、おばさんが帰ってきて夕食となった。
開幕したプロ野球『阪神ー広島』を観ながらまったりとした時間を過ごした。

観ているうちに阪神の大量リードとなったので食後の運動に外に素振りしに出てきた。

「修希は野球部に入るんだよね？」

「うん、そうだけど・・・」

すると、アカネはなんだか気難しい顔になって
「あのね、野球部のエースの娘は学校でもかなり有名なの」

「？。どういう風に？」
修希はいきなりであんまり意味がわからなかった。

「なんていうか・・・その・・冷徹っていうのかな、かなり人に冷たいの。何考えてるかわからないし」

「だから、気をつけてね」
アカネは本当に心配そうな表情をしている。
その女子はそれほどまでに恐れられているのだろう。

「まぁ、明日部活に顔出すからそこでわかるか・・・」
修希の心の中は楽しみと不安で満ち溢れていた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4984s/

モブおん！！(改)

2011年10月8日04時47分発行